

花王は、戦略的デジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、先端技術を活用して、ビジネスの変革と業務の効率化を図っています。

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

ここ数十年の社会の変化はいまだかつてないレベルの規模で進み、現在も加速し続けています。

社会の変化に大きな影響を与えている要因の一つとしてデジタルテクノロジーの存在が挙げられます。デジタルテクノロジーは「いつでも、どこでも、誰とでも時空の制約を超えてコミュニケーションできる」という破壊的イノベーションをもたらしますが、これを企業価値向上の武器として使いこなすことができるか否かが企業の存続をも左右します。このデジタル変革の波は「デジタルトランスフォーメーション(DX)」という言葉で表現されています。企業はDXによって、新たな価値を生み出していくことが求められています。

花王が提供する価値

DXを進めることは、生産性を高め、業務効率を改善するだけでなく、顧客からの評価向上、新規顧客の獲得にもつながると考えています。

貢献するSDGs



方針

戦略的DXを推進し、先端技術を活用したビジネスの変革と業務の効率化を実現させ、ITツールと花王が持つビッグデータを学習させた人工知能(AI)を活用して、会社の生産性(=付加価値/コスト)を不連続に向上させます。

教育と浸透

社員がDXの効果を実感できるソリューションを Quickly 投入するとともに、その内容を広く社員に周知することで、DXの自分ごと化を全社員に促しています。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

取引先とは、単なる顧客とベンダーという関係にとどまることなく、重要なステークホルダーとしてDXを通じて、ともに社会的価値を創造できる関係をめざしています。

取引先、研究機関、その他団体とのオープンイノベーションを推進しています。

デジタル先端技術戦略 102-20,103-2

体制

専務執行役員が統括する先端技術戦略室(SIT)がデジタル先端技術戦略の立案・実行を推進します。

統括直下に戦略企画グループを配置し、実務を担当する以下の4グループの活動をコーディネートする体制としています。

能率化活用グループ

デジタル技術を活用して、業務プロセスを抜本的に効率化するための戦略・戦術を提案・実装します。現存データをユーザビリティを高めた形で統合し、先端技術により高付加価値情報に転換を進めます。

情報戦略グループ

デジタル技術の活用はもちろん、リアルな体験を含めた統合的な視点から戦略・戦術を立案し、社内外のステークホルダー(社員、顧客、株主、社会)とのコミュニケーションを刷新します。戦略・戦術にマッチした情報コンテンツを開発するための社外コンテンツパートナーを開拓し、ネットワークを構築します。

事業・販売グループ

デジタル技術を活用した新しい事業や事業モデルを提案するとともに、事業モデルに適したスピーディな商品開発プロセスを実現します。

IT設計管理グループ

DXのための情報システム基盤の再構築とIT先端技術の導入・実装を行ないます。これによって3グループの活動を支えます。

主な会議体は、統括をはじめ先端技術戦略室が全員参加する月次全体ミーティングと、各グループのリーダーを務める部長が主催するグループミーティング(週1~月1程度)です。

デジタルトランスフォーメーションのターゲット領域



中長期目標と実績

2020年中期目標

IT 先端技術を、企業価値向上の必要不可欠な武器として
駆使できるAI-readyな企業となる。

中長期目標を達成することにより期待できること

事業インパクト

時間創出効果と金額効果を合わせた固定費抑制効果として25億円以上の効果を生み出す。

社会的インパクト

ステークホルダーに対して魅力的な顧客体験を提供する。

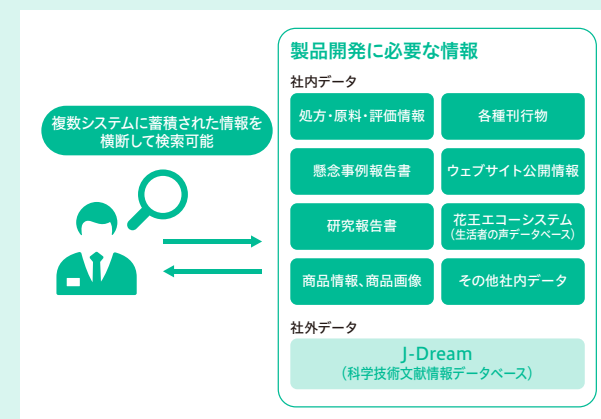
2019年の実績

実績

デジタル先端技術の活用によりさまざまな業務の能率化を進め、2019年度は固定費抑制効果として約15億円を達成しました。抑制効果であるため損益上の直接的なインパクトとしては表現できませんが、時間創出効果としては20万時間以上に相当し、その分より創造的な業務に振り向けることができました。

2019年の主な成果としては、研究員向けの「統合検索システム」の構築が挙げられます。製品開発を行なう際、これまでは複数システムで管理されているデータを収集するのに時間を要していましたが、本システムでは情報を横断的に検索できるため、情報収集にかかる時間を大幅に短縮できます。創造的な研究を行なうための時間をより多く確保し、競争力ある研究開発につながることを期待しています。

統合検索システムのイメージ



一方、新たな価値を生み出す活動としては、機械学習・深層学習に強みを持つ(株)Preferred Networksと皮脂RNAモニタリング技術の実用化に向けたプロジェクトを開始しました。

実績に対する考察

先端技術戦略室発足後2年が経過し、具体的な成果が求められる中、いくつかの成功事例を生み出すことができました。2020年は、より社員がデジタル先端技術を自分ごととして活用でき、企業文化醸成や企業価値向上との連動性を強化する必要があります。

具体的な取り組み

能率化活用分野

研究分野において、AIを活用することで効率化して検索する「統合検索システム」を2019年初頭より稼働させました。これにより、報告書や特許、処方、試験結果だけでなく、薬事を含めた商品情報、消費者相談情報といった非構造化データまで取り込むことで、開発する際に必要な情報を網羅的に一括取得できるようになり、ルーティン業務を大幅に削減し開発スピードが飛躍的に向上しました。

人材関連では、勤怠管理データを学習したAIにより、休職のリスクが高い社員を事前に察知し、プロアクティブにケアができるシステムを構築中です。

情報活用分野

情報発信のしくみにおいては、これまでは各事業部門が独自の情報発信やアプリ提供をしていたため、他事業部門への展開や連携が不十分な点がありました。今後はこのように個別に実施されていたCRM(Customer Relationship Management)システムを一つに集約し、ステークホルダーごとに情報の受発信をカスタマイズして、真に必要な情報だけをお届けしたいと考えています。

事業・販売分野

ネット販売やソーシャルネットワークを活用した調査・商品開発・販売などを、AIを活用することで一新していきます。商品の情報伝達のみならず、商品が生み出されるまでの研究内容や、技術開発の詳細などを必要とされる方に的確に届けるデジタル広報も強化していきます。また、商品の効果的な情報伝達の手段として、新しいバーチャル伝達手法を開発し、これまでにない魅力的な商品価値体験を開発します。

AI技術を応用した美容カウンセリングサービスの構築

花王(株)は(株) Preferred Networksとともに、皮脂RNA(リボ核酸)モニタリング技術※の実用化に向けた協働プロジェクト“Kao×PFN 皮脂RNA プロジェクト”を推進しています。

第一弾として、皮脂RNAから得られたデータを機械学習・深層学習して、高度な予測アルゴリズムを開発します。これにより、既存の肌測定・解析技術では把握できなかった肌内部の状態を知ることや、将来の肌ダメージのリスク評価が可能になります。さらに遺伝情報をもとに個人に合った美容アドバイスやスキンケアを提供し、肌状態の改善・予防を図ることができます。

本プロジェクトの推進により、将来的には、パーキンソン病などの難治性疾患の早期診断技術の実現にもつながります。

※ 皮脂RNA(リボ核酸)モニタリング技術

花王が開発した、日々変動する体内状態を反映するRNAを皮脂から単離し、分析する技術。あぶらとりフィルムで皮脂を採取するという非侵襲性の(体に負担の少ない)試験で約13,000種類のRNA発現量を得ることができる。

DX浸透のために

「SIT通信」をイントラネットに定期的(概ね隔月)に掲載しています。また、統括役員が執行役員会で各部門担当役員に活動を紹介するとともに、DX浸透への協力を呼びかけています。また、年一回の情報システム部門業務報告会にて、先端技術戦略室の年間活動成果を発表しています。先端技術戦略室のメンバーの多くは各部門の業務を兼任しているため、各部門とのブリッジの強化にもつながっています。

ITベンダーとの協業

DXソリューションを計画・実装するにあたり、計画段階から社外ITベンダーとの協業体制をとっています。特に、豊富なIT技術を保有する総合ITベンダーの社員には先端技術戦略室に常駐していただき、専門的なアドバイスを受けられるような体制をとっています。